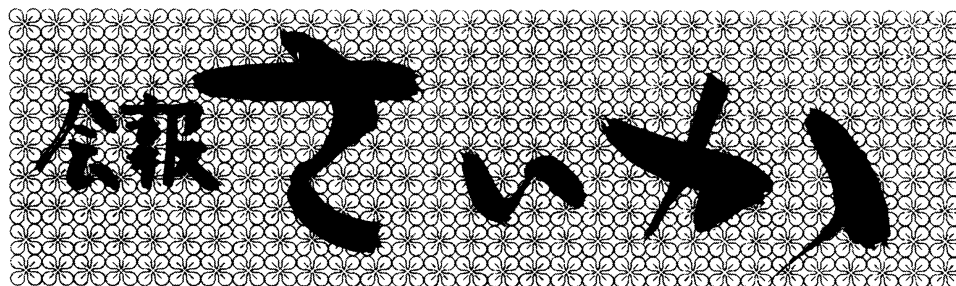


第 43 号

発行所

茶道裏千家淡交会
石川南青年部石川県小松市小馬出町 123
松本パークハウス 24 号
TEL0761-24-6457印刷社名
(株) 鶴川印刷

年間テーマ・目標

「できるようになってからやるのではなく、やっでできるようになる」

茶道裏千家淡交会石川南青年部会報

第 24 回
少年少女ジャンボリー

平成 27 年 7 月 18 日(土)、19 日(日)の二日間にわたり、小松市大杉町の大杉みどりの里において、第 24 回少年少女ジャンボリーが行われました。今年は、大人 21 名、子供 43 名の参加がありました。

一日目は、講師の中山美智子先生の指導のもと草木染め体験を行ないました。子供は T シャツ、大人はストールを作成しました。輪ゴムや紐で、ビー玉や竹を使っているいろいろな形に布を結んで、それぞれ好きなデザインを作り、玉ねぎの染料で黄色や深緑に染めていきました。染められた柄は各々の個性が出ていました。その後、お茶会体験を行いました。立礼にて薄茶を一服、大人も子供も一緒に参加しました。夜は、外でキャンプファイヤーを楽しみ、歌やゲームで盛り上がりました。

二日目には、行松旭松堂の行松宏展さんによる和菓子作り教室が行われ、朝顔をイメージした「もらい水」という銘のお菓子と、「夏祭り」という銘のきんとんを作りました。やわらかい館をみんな上手に形にしていきました。

最後に茶筌振り体験として、グループになり一人一人お茶を点てました。大人も子供も一緒になってお菓子とお抹茶をいただき、盛りだくさんのジャンボリーは夏休みの良い思い出となりました。

(立花 千佳)



「ジャンボリーに参加して」

武田 奈津

青年部に入ってからほぼ毎年参加しているジャンボリーですが、毎年来てくれる子供達もあり、顔を覚えてくれていたりして嬉しくなります。今年もたくさんの方が参加があり、初日からみんな元気いっぱいで大騒ぎでした。

草木染め体験は私自身初めてで、子供たちと一緒にわくわくしながらデザインを考えました。布を結ぶ位置で全然違った模様になり、できあがった作品はそれぞれに味があつて、思いもよらない柄になっていて、何回でもやりたくなるような体験でした。お茶会体験では、立礼式で大人も子供も一緒に参加しました。青年部のジュニア委員の皆さんの、浴衣姿でのおもてなしに涼しさを感じ、はしゃいで楽しんだ後の一服がとても美味しかったです。子供達も静かにお茶を飲んでお話を耳を傾けていました。夜は待ちに待ったキャンプファイヤー。子供達のはしゃぎように押されながらも、一緒にゲームに参加しました。体はヘトヘトでしたが、子供達の嬉しそうな顔を見ると、疲れも吹き飛びました。

翌日は、行松宏展さんによるお菓子作り教室で、毎年参加の子供達は一度

いろんな柄が
できました



草木染め体験！
皆で一氣に染めます

説明を聞いただけで次々と作っており、さんとんの上に乗せるねじりハチマキも細かい作業でしたが上手にできており感心しました。

今年も盛りだくさんの内容のジャンボリーで、私自身が楽しく子供達から元気をもらいました。毎回最後には絵日記を書いてもらうのですが、青年部会員の名前や顔を書いてくれる子供達もいて、こちらの方が良い思い出になったなあとしみじみ感じ、また来年も楽しいイベントにしたいなあと感じました。

盛り上がった
キャンプファイヤー♪



お茶会体験

京都研修旅行

平成 27 年 9 月 6 日(日)、ジュニア委員会主管による京都研修旅行が行われました。

午前中は京都市山科区の將軍塚青龍殿で日本三不動の一つ、国宝青不動と期間限定で展示されているガラスの茶室「光庵(こうあん)」を見学しました。山上の大舞台に透明なガラスで建てられたお茶室で、比叡山や京都の町並みを展望することができました。

お昼に伏見区の「月の蔵人」でおいしい京料理をいただいた後、宇治市の京都福寿園宇治工房でお茶挽き体験をしました。最初は思うように挽けませんでした。最初は「碾茶(てんちゃ)」が細かい粉となり出てきた時はとても良い香りがしました。その抹茶で抹茶を点て、宇治工房の方の手作りの羊羹とともにいただきました。

最後に同じ宇治川のほとりにある朝日焼十五代松林豊斎氏による「説明を伺いながら、工房や登り窯「玄窯(げんよう)」の見学をしました。実際に作品をつくる時の思い、また子や孫の代のために土や環境を残していくという

お話に皆深く感動していました。

今回の旅行では貴重な体験や、茶道に関する知識を深めることができました。また移動中も岩谷部長による茶道文化検定からの難問クイズやジュニア委員会によるビンゴが行われ終始和やかな雰囲気となり、青年部会員同士の親睦にも繋がりました。

(北嶋 恵里香)



「京都研修旅行に参加して」

岩谷 樹

今回、自分の所属する地域協力・ジュニア交流委員会主管にて、久しぶりのバスを利用しての京都旅行に参加させていただきました。

行き帰りは寝ていればいいと考えていたところ、委員会にて「バスの中の余興」を担当することになりました。あまり凝ったものを準備する余裕がなかったのですが、お茶に関するクイズとして、「茶道文化検定」のホームページにあった練習問題を、そのまま使わせていただきました。中には簡単な問題もあったのですが、高度な難しい問題も多く、目的地に着く前から、皆、かなりのエネルギーを消費したようでした。また、私がマイクを使って口頭で問題を出していったのですが、約20問の設問と選択肢を読み上げ続け、また、息抜きとしてお茶とは関係ない松枯病の話もしたところ、私までも、想定した以上に疲れてしまいました。しかし、茶道に関するいろいろな書物の名や歴史に少し触れることができ、良い勉強になりました。

京都では、まず東山にある將軍塚青龍殿へ行き、国宝の青不動の絵と、吉岡徳仁（よしおかとくじん）がデザイ

ンしたガラスの茶室「光庵」(こうあん)を拝見しました。青不動の由来や、描かれた当時の色合いの解析がされた話を聞き、不動明王とその信仰について、その輪郭くらいはおぼろげにわかりかけたような気がしました。屋外のテラスに建てられた光庵では、この時は雨だったのですが、雨の中もお茶を頂ける唯一の茶室だと感じました。また、茶室は通常、光をどう取り入れるかということを考えて作られるものであるのに対し、ここでは影をどう取り入れるか考えるのも面白いと思いました。

昼食は伏見の、豆腐にこだわりのある「月の蔵人」にて豆腐数種を含む和食を頂きました。クイズと雨の中の行軍で疲れていたため、静かな休憩時間を楽しみました。

午後は福寿園宇治工房にてお茶挽き体験をさせていただきました。御影石を磨いて作られた石臼で、蒸して乾燥させた茶葉である「碾茶(てんちゃ)」を挽いて「抹茶」を作るのですが、速すぎず遅すぎず一定の速さで20分近く挽いて、ようやく二服ぶんの抹茶ができるというものでした。次いで、挽きたての抹茶を点ていただきましたが、店舗で買う缶入りのお茶とは全く違う、はつきりとした強い香りと味を感じました。一服の抹茶を挽く汗ばむ

ほどの苦勞と、挽きたての抹茶のおいしさを知ることができました。



お茶挽き体験



朝日窯にて

最後は福寿園の向かいにある、朝日焼の窯元「朝日窯」にて、登り窯等の見学と十五代松林豊斎氏のお話を伺

うことができました。ガス窯は仕上がりを安定させられること、登り窯を使うときの火加減の調整の難しさ、予期しない面白い景色ができること、完成品の中の「特に良い品」の少なさといった貴重な体験談を聞き、焼き物の見方がまた少し、変わったと思います。盛りだくさんの内容で、帰りのバスではみんな眠るばかりかと思いましたが、バスの後ろ半分の座席がサロンモードになっており、会員同士いろいろな話をして、眠る時間はありませんでした。私以外のジュニア委員の皆様には、最初から最後まで参加者に気を配ることを考えてご尽力いただき、誠にありがとうございました。



2015/09/06

和菓子作り教室

平成 27 年 10 月 3 日(土)、小松市芦城センターにて和菓子作り教室が開催されました。今回の教室は、青年部会員の会社中の先生方も是非一緒にとお誘いし、先生方 7 名、青年部会員 18 名の参加となりました。

講師に行松旭松堂の「浜ちゃん」と浜中剛工場長を迎え、「イートン・メス(浜ちゃんバージョン)」を作りました。このお菓子は、今年一月にNHKで全国放送された「妄想ニホン料理」の中で、浜中工場長が、イギリスのお菓子の「イートン・メス」という名前といくつかのヒントから、どんなお菓子が想像して作り出したお菓子です。まず寒天で色とりどりの錦玉を作り、次に葛餅、蕨餅を作りました。その工程は和菓子作りならではの手作業で、鍋から出したばかりの熱い餅を素手で丸めていく作業では、あまりの熱さに皆様大変にぎやかな様子でした。

最後に各自持参した抹茶茶碗に作りたい和菓子三種に小豆を盛り付け、焼き菓子のスティックを添えて、和風パフェのような趣のお菓子が完成しました。今までにない趣向のお菓子作り

教室でしたが、自分達の手で作ったお菓子はとても美味しく、お抹茶をいただくながら、先生方、会員同士の会話も和やかに弾み、とても楽しい教室となりました。

(立花 千佳)



「和菓子作り教室に参加して」

野邊 翔平

和菓子作り体験に参加させていただきありがとうございます。

初めて耳にした「イートン・メス」というお菓子作りが楽しかったのは言うまでもありませんが、青年部の方や先生方とお会いできたことが個人的にとっても貴重な経験ができたと感じています。お茶をきっかけに色々な人が集まり、楽しい時間を過ごせたことで茶道の可能性を一層感じられました。青年部の活動には今後も機会があれば参加していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



青年部体験茶会

平成 27 年 11 月 15 日(日)、小松市八日市町のこまつ曳山交流館みよつさにおいて、青年部体験茶会が開催されました。

平成 28 年 5 月に開催される地区大会にて学校茶道と青年部が合同で茶席を持つことになっていますが、その前に学校茶道との交流を深める機会を作ろうと、青年部でこの行事を企画し開催しました。立礼席にて、一席目は学生さんと学校茶道の先生方にお席に入っていただき青年部でもてなしをしました。二席目以降は、学生さんにお点前やお運び、水屋にも入ってもらい、青年部会員と一緒にお客様をお迎えしました。みなさんやや緊張しながらも、落ち着いた様子でお運びやお点前をされていました。学生さんをあたたかく見守る学校茶道の先生方のお姿もあり、和やかにお茶会を行なうことができました。

この行事を通して、学校茶道と青年部の交流のきっかけになり、地区大会に向けての活動の第一歩となりました。

(武田 奈津)



「青年部体験茶会に参加して」

吉館 聖子

こまつ曳山交流会館みよっさにて行われた青年部体験茶会に参加しました。この体験茶会は、地区大会立札席（学茶と青年部の合同席）に向け学茶の皆さんと一度交流を持ちたいという思いから実現できました。当日は寺井中学・寺井高校・北陸先端科学技術大学院大学の学生さんに参加していただき、水屋とお運びを私達と一緒に体験することができました。

学茶のみなさんのお辞儀やお茶碗の扱いがひとつひとつとても丁寧にしていたのに感心し、自分の振る舞いを今一度見直す機会となりました。また、学生さん達と実際にお会いして言葉を交わしたり一緒に運びをすることで、合同席へのイメージができ、これからのお茶席準備が楽しみになってきました。今回、学生さんだけでなく学茶の先生方にも青年部の行事に参加いただき、大変貴重な機会だったとても嬉しく思います。本当にありがとうございました。



LT研修報告

松岡 未果

第28期LT（リーダーシップ・トレーニング）研修に参加し、平成27年2月12月の年6回、総本部で研修を受けさせていただきました。青年部の成り立ちや役割、青年部活性化の施策、総本部の考える青年部のあり方といったことを学びました。また、総本部の企画とは別に、研修の前後に染色・絵付・茶碗づくりなど体験教室や茶会参加・



美術館見学をするなど青年部の縁と友情を広げることができ、全国から参加の30名を通していろいろなタイプのリーダー像を知ることができました。6回はあっという間でしたが、実際の回数・時間とは比較にならないくらい充実したものとなりました。学んだことを少しずつ模索しながら皆様にお伝えしつつ、青年部に貢献できればと思います。ありがとうございました。

青年部納会

平成 27 年 12 月 12 日(土)、小松市のレストラン、エムラインマーケットにて納会が行われました。今年最後の行事ということもあり、美味しい料理とお酒で話も弾み、大盛り上がりでした。会の最後には、今年で青年部を卒業される奥村洋子さんと若山直代さんに、卒業記念としてハートの形をしたお茶碗をお贈りしました。卒業されるのはとても寂しいですが、今後のますますのご活躍をお祈りし、いつまでも会話がつかない楽しい会となりました。

(美川 信貴)



青年部卒業に寄せて

今回、青年部卒業生のお二人に、今までの思い出など寄せていただきました。

平成 27 年度卒業 奥村 洋子

たくさんの出会い、貴重な体験のご縁をいただき、振り返ればとても充実した九年間でした。

青年部ならではの・・・の楽しいお茶会や、工房見学に研修旅行。自作の道具もたくさん揃いました。

真夏のジャンボリーは企画・運営に携わった行事でもあり、特に想い出深いものです。参加した子どもたちと、将来どこかのお茶席で一緒に過ごす・・・などと楽しく期待もしています。

まだまだ名残惜しいのですが、50才をひと区切りとして卒業いたします。青年部は見ただけじゃなく、どんどん参加したほうがおもしろいですよ。失敗しながら成長できるのはここだけ！これからのみなさん、もっともつとお茶の輪をひろげてくださいね。

最後になりましたが、これまでのご厚情に深く感謝しております。ありがとうございました。



平成 27 年度卒業 若山 直代

憧れの青年部。思い切って門を叩いてから、様々な活動に参加させていただきました。

卒業と胸を張って言えるほど経験も年数もありますが、快く優しく受け入れて下さった青年部の皆さんには心から感謝しています。今後は少しでもご恩返しができたらと思っています。本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしく願います。

編集後記

さいか 43 号をお届けいたします。27 年度は新入会員の皆さんとの出会いあり、また先生方とも行事を通じて交流させていただき大変充実した一年となりました。そして、奥村さんと若山さんのご卒業。一緒に活動したことや悩みを聞いてもらったことなど、お二人との思い出は数えきれません。とても名残惜しく寂しい気持ちで一杯ですが、今後どうぞ変わらぬ関係でご指導ください！本当にありがとうございました。

(武田 奈津)

青年部会員募集中

私たちと一緒に活動しませんか？

詳しくは・・・

淡交会事務所

(0761-24-6457)

石川南青年部部长 岩谷

(0761-22-6311)

「さいか(細花)」とは？

細かい花のようにお茶が点っている様子を表した言葉。

会員一人一人は小さい花かもしれませんが、みんなが集まって青年部として一つの大きな花を咲かせていくように、という気持ちが込められています。